

宗門改帳からみる山陰の近世社会

その2

2004-06年度島根大学法文学部山陰研究プロジェクト0404

宗門改帳データベースによる出雲・石見地域の生活様式の比較史研究

最終年度 研究報告書

2007年3月1日

山陰宗門改帳研究会

はしがき

本報告書は 2004-06 年度島根大学法文学部山陰研究プロジェクト 0404「宗門改帳データベースによる出雲・石見地域の生活様式の比較史研究」の最終年度 2006 年度までの研究活動の成果をまとめたもので、2005 年度末の研究報告書の続編である。

本研究の特徴は島根大学付属図書館に所蔵された熊谷家文書中の宗門改帳を中心として、山陰地域に数多く保存されてきた宗門改帳を探索し、整理、解説、電子化してデータベース化し共同利用することを軸として、多面的総合的な研究を行うところにある。

宗門改帳は江戸時代の各村の各人を記録したものであり、これによって当時の人びとの生活の様々な側面を知ることができる。宗門改帳は島根県内においてかなり存在していることが知られているが、個人宅や市町村役場、図書館に分散し、一部を除き電子化されておらず、体系的な利用は極めて難しい状況にある。これをデータベース化するには、資料収集、解説、電子化、集計などにおいて、多分野の専門家による共同研究作業が必要であり、多大の人力と経費を要する。また、他方、宗門改帳を利用した研究のためには、当時の村の産業や生活に関する別の資料による研究とともにとりくむことが重要である。

本研究はこの宗門改帳のデータベース作りの作業に共同で取り組むとともに、できあがったデータベースを順次、用いて研究し、また、これと並行して、当時の村の産業や生活を別の資料による研究を進め、江戸時代の人名・用字、人口・家族、産業、宗教など多くの側面から江戸時代の石見・出雲地域の社会の仕組みを明らかにしようとするものである。

以上のような石見・出雲の江戸時代社会の復元研究はまだ中間段階にあるが、山陰研究プロジェクトとしての終了にあたり一応のまとめを刊行し、多くの研究者による批判を仰ぐとともに、石見銀山など各地域の歴史文化遺産を活用する事業の一助となることを期待している。また、本研究において作成される宗門改帳データベースは山陰研究センターなどで一定の条件のもとで研究や教育に広く利用可能になるよう努力したい。なお、本研究プロジェクトは 2007-9 年度日本学術振興会科学研究費プロジェクトとして引き継がれる予定である。

研究代表 島根大学法文学部山陰研究センター

廣嶋清志

2007 年 3 月 1 日

研究組織

廣嶋清志 島根大学法文学部・教授 人口学（研究代表）
田籠 博 島根大学法文学部・教授 国語史学
小林准士 島根大学法文学部・助教授 日本近世史学
相良英輔 島根大学教育学部・教授 産業歴史学
山崎 亮 島根大学教育学部・教授 宗教学
伊藤康宏 島根大学生物資源科学・助教授 漁村歴史学
鳥谷智文 松江工業高等専門学校・助教授 日本歴史学
仲野義文 石見銀山資料館・学芸員 日本歴史学

研究経費

2004 年度 60 万円
2005 年度 60 万円
2006 年度 40 万円

外部資金（申請中）

日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 B 2007-9 年度 石見銀山領における人口増加開始期の人口再生産機構に関する研究（社会科学 経済学 経済史）

目 次

はしがき	廣嶋清志	
第1章 石見銀山附地役人の身分と通婚、家族	仲野義文	1
第2章 石見銀山領の社会階層別出生率と結婚率 —持高別・宗門別較差を中心として—	廣嶋清志	17
第3章 櫻井家「召抱人」の構成 —『明治式巳十月 召抱人別書出帳』（櫻井家文書）の分析—	鳥谷智文	51
第4章 町村是（農事調査報告書）調査の展開 —山陰地域を中心に—	伊藤康宏	97
第5章 『出雲国産物帳』の樹木方言記事について	田籠 博	109
第6章 墓上施設の現状	山崎 亮	119
第7章 たたら製鉄業における山内の人口動態と山内「掟」	相良英輔	134
研究会記録		135
前号目次		137